

## 特集 自ら学ぶ力を育てる

## 学びのプロセスを意識した授業づくり



松沢伸二 (新潟大学)

## 外国語の学びのプロセス

やってみせ、言って聞かせて、させてみて、ほめてやらねば、人は動かじ——人口に膾炙した山本五十六のこの言葉は、教育の要諦を突いている。

山本と同じ時代を生き、日本の英語教育に貢献した Harold Palmer も、同様のプロセスを説いた。それは現在では、PPP という外国語教育で本流の指導手順になっている (Richards & Rodgers, 2001)。3つのPは順に、Presentation (提示)、Practice (練習)、Production (活用) である。

PPP は語学以外の様々な学びにも適合する。例えば、私達は新機種の携帯電話を購入すると、店員や説明書経由で仕組みを理解する (Presentation)。次に各種のボタンを駆使して語句などを打ち、新しい使い方に習熟する (Practice)。最後に実際に送受信するうちに新機種に慣れ、機器の操作よりはメールの内容に集中して使えるようになる (Production)。

## 新教科書のレッスンの構成

24NC はこの PPP を意識して単元を構成している。次ページに1年生 Lesson 8 の全体を示した。新教科書はどの学年のレッスンも、原則的に次の5種類のページから成る。①とびら、② GET、③ USE Read、④ USE Listen / USE Speak / USE Write / USE Mini-project、⑤まとめ。

このレッスン構成は、「学びの見通しをたてる」とびらのページ (①) で始まり、「知識・技能の習得」を図る GET のページ (②、基礎・基本の学習用) が続く。次に「知識・技能の活用」を図る2種類の USE のページ (③と④、中心的な学習用) が来て、「学

びを確認する」まとめのページ (⑤) で終わる。

各レッスンの USE では、USE Read + USE Listen / Speak または USE Read + USE Listen / Write のページで「総合的」な活用学習を行い、USE Read + USE Mini-project のページで「統一的」な活用学習を行う。なお Use Read については、外国語の学びにおける読むことというインプット活動の重要性を考慮して、全ての課に配置している。

生徒は GET のページで新しい学習事項を提示され (Presentation)、練習する (Practice)。次に、この GET のページで習得した事項を USE のページで活用し、自在に使えるようになる (Production)。新しい教科書はこのようにして、PPP の学びのプロセスに添って、習得ページと活用ページの2部構成で、生徒に確かな学力を定着させる。

## 授業の実際

次ページ Lesson 8 の新言語材料は、現在進行形である。生徒はまず、とびらでこの課の内容を軽く概観した後、GET のページ左下の POINT で、その形と意味を理解する (Presentation)。次にその下の Drill で形に慣れ、続いて右ページの Practice で (Word Corner の語彙も使い) 意味に注目する練習をする (聞く・話す・書く技能の Practice)。最後に GET の左ページ冒頭の短い文章 (5行ほど) を読み、まとまりのある文章内での現在進行形の働きを理解する (読む技能の Practice)。以上で、現在進行形の「知識・技能の習得」を図る。

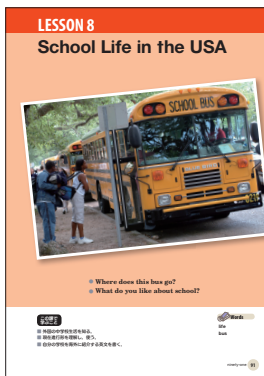
USE Read に進んだ生徒は、習得した現在進行

形の知識を活用して email を読む現実的なタスクを行う（読む技能の Production）。続く USE Mini-project では、学校行事を説明するホームページを現在進行形を用いて完成するタスクをする（統合技能の Production, 聞く+話す+書く）。生徒はこれらのタスクで、新出事項と既習事項を繰り返し使って「知識・技能の活用」を図る。以上は、可能な授業展開の一例である。最後に、まとめでこの課で扱った文法事項や音のルールの振り返りをする。授業時間内でもよいし、家庭学習に回してもよいだろう。

### 新しいレッスンの構成の意義

以上のように 24NC は、知識・技能の自然な学びのプロセスを反映する PPP の授業を、どの教師もできるように改訂した。PPP は、見る→行う、

とびらのページ (①)



受信→発信, 口頭→書面, 制御→自由, 宣言的知識→手続的知識などの流れを含む。それは、世界の外国語教育で現在主流な教授法である CLT (Communicative Language Teaching) が、個別の言語材料・技能を指導する際に用いる確立されたモデルである (Pachler, Barnes & Field, 2009)。

新しい教科書には中学生が興味を持つ題材を多く用意した。今次の改訂では、教師が生徒の学び意欲を高めつつ、知識の確実な習得と、4技能の総合的・統合的な伸長を弾力的に行えるように配慮した。

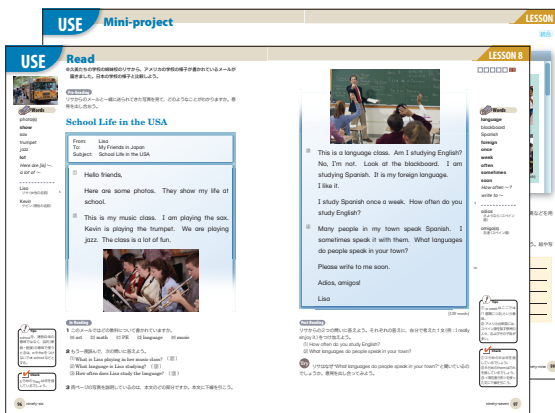
### 【引用文献】

Pachler, N., Barnes, A. & Field, K. (2009). Learning to teach modern foreign languages in the secondary school: A companion to school experience. Routledge.  
Richards, J.C. & Rodgers, T.S. (2001). Approaches and methods in language teaching. Cambridge University Press.

GET のページ (②)



USE のページ (③と④)



まとめのページ (⑤)

